

大学の目的 (学則 第3条)	学部の教育研究上の目的 (学部規則等から抜粋)	
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>	<p>自然を律している基本的な原理や法則を究め、その成果に基づいた教育を行うことを使命とし、この使命のもと、豊かな人間性と国際的視野及び高い研究能力を有し、リーダーシップをもって社会で活躍できる人材を育成するため、教養教育を重視するとともに、理学全般の基礎学力、幅広い視野から課題解決ができる応用力を培う教育を推進する。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p><b>【卒業認定・学位授与方針】</b> 理学部では、本学の理念及び本学部の教育目的に基づき、各学科における所定の課程を修め、以下に示す学修成果を上げた者に、学士(理学)の学位を授与する。</p>	<p><b>【教育課程編成方針】</b> 理学部では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる5つの能力を学修するため、体系的な教育課程を編成する。</p> <p><b>【教育課程実施方針】</b> 4年間の学修を通じて、学生が主体的・能動的に学ぶことができるような学修を実施する。授業科目としては、教養教育科目、専門教育科目(専門基礎科目、専攻科目)、自由(選択)科目を設け、講義・演習・実験・実習の様々な方法・形態等により行う。その評価は、各能力における学修成果の到達目標に対する達成度について、客観的な成績評価基準に基づいて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次においては、教養教育科目、共通科目、専門教育科目の基礎科目など、幅広い教養や専門分野の基盤となる科目からなる教育課程を実施する。</li> <li>・2年次から3年次においては、専門分野に関する知識・技能を体系的に修得するための専門教育科目の専攻科目を中心とした教育課程を実施する。また、将来に繋がるキャリア教育に関する教育課程を実施する。</li> <li>・4年次においては、3年次までに修得した知識・技能を基盤とした卒業論文・研究を実施する。それとともに、研究者としての倫理観を育成する教育課程も実施する。</li> </ul>	<p><b>【入学者受入れ方針】</b> 理学部では、次のような入学者を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学を学ぶために必要な基礎知識、論理的思考力、理解力、表現力のある人</li> <li>・自然界の多彩な現象に強い好奇心を持ち、自然科学を広く学ぶ意欲のある人</li> <li>・未知の問題を主体的に解明する、旺盛な探究心のある人</li> <li>・自然科学の領域から、地域社会や国際社会に貢献したい人</li> </ul> <p><b>【入学者選抜の基本方針 (入試種別とその評価方法)】</b></p> <p>一般入試(前期日程) 大学入試センター試験では高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、個別学力検査では「数学」、「理科」を課し、各専門分野の修学に必要な学力を評価する。</p> <p>一般入試(後期日程) 大学入試センター試験では高等学校卒業レベルの基礎学力を評価し、個別学力検査では「数学」、「理科」又は「面接」を課し、「数学」及び「理科」では各専門分野の修学に必要な学力を評価し、「面接」では科学的思考力と環境科学を学ぶための意欲を評価する。</p> <p>特別入試(推薦入試) 大学入試センター試験では高等学校卒業レベルの基礎学力を評価する。 「小論文」により、各専門分野に関する思考力と文章表現力を評価し、「面接」により、各専門分野を学ぶ意欲と口頭による表現力を評価する。</p> <p>特別入試(帰国生徒入試、社会人入試) 「小論文」により、各専門分野に関する思考力と文章表現力を評価し、「面接」により、各専門分野を学ぶ意欲と口頭による表現力を評価する。</p> <p>私費外国人留学生入試 日本留学試験で、日本語力、理科及び数学の基礎的学力を評価するとともに、「面接」により、学習到達度、思考力、表現力、学習意欲等を評価する。更に数学科では、「数学」により専門分野の修学に必要な学力を評価する。</p> <p><b>【入学前に学習すべきこと】</b> 高等学校までに学ぶ数学、理科、国語、外国語、地理歴史・公民について、十分な基礎学力を身に付けておくこと。さらには、論理的思考力、判断力、表現力、主体的に学修に取り組む姿勢なども身に付けておくこと。</p>

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー					アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】					【求める資質・能力】
		数学科	物理学科	化学科	生物学科	生物圏環境科学科	
幅広い知識	<p>【学修成果】 自然科学のみならず、人文科学や社会科学に関する広い知識を修得し、それを自立した市民として社会に活かす能力と、生涯にわたって学修意欲を持って自己研鑽する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 科学の様々な分野を俯瞰する能力、文化、社会に関する広い知識、文化の多様性や異文化の価値を理解する能力、生涯学修力</p>	<p>【学修内容】 自然科学の諸分野に関する基礎知識、人文・社会科学に関する基礎知識、外国語・情報処理に関する基礎知識、保健体育の基礎知識や実技など、様々な分野の知識・考え方を修得し、物事を多面的に捉える能力の修得する。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目を履修することにより、幅広い知識を身に付ける。</p>	<p>【学修内容】 自然科学のみならず人文科学や社会科学に関する広い知識を修得し、それを自立した市民として社会に活かす能力と新たな知識獲得のための学修を継続できる能力を養う。</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目及び共通基礎科目として、人文・社会科学科目、外国語科目、保健体育科目、情報処理などを、定められた単位数の範囲内で自由に選択して学修する。富山の自然環境及び生物学に対する関心を高め、大学での生物学学修の動機付けを行うために、専門基礎科目として、基礎生物学セミナーを1年次の必修科目として学修する。さらに、自然科学(理学)の幅広い基礎知識を修得するために、専門基礎科目として、地球生命環境理学を必修科目として学修するとともに、数学、物理学、化学、地球科学、生物圏環境科学などに関する科目を、定められた単位数の範囲内で自由に選択して学修する。</p>	<p>【学修内容】 環境科学に関連した諸課題へのアプローチに資するために、自然科学のみならず人文科学系、社会科学系、医療・健康科学系、総合科目系、外国語系、保健・体育系及び情報処理系の教養教育科目並びに専門基礎科目の学修を通じ、視野の広い人間性豊かな教養を身に付ける。</p>	<p>【求める資質・能力】 高等学校までの基礎学力を持ち、自然科学のみならず、人文科学や社会科学に関する広い知識を修得しようとする意欲を持つ人</p>
		<p>【学修方法】 人文・社会科学科目、医療・保健科学系科目、総合科目系科目、外国語系科目、保健体育系科目、情報処理系科目など、幅広い分野にわたる教養教育科目の学修、及び自然科学の諸分野の専門基礎科目を学修する。</p>	<p>【学修方法】 自然科学のみならず人文科学や社会科学に関する広い知識を修得するため、在学中に教養教育科目、専門教育科目、自由選択科目を学ぶ。中でも、1年次の教養教育科目で人文科学や社会科学に関する広い知識を身に付ける。</p>	<p>【学修方法】 自然科学のみならず人文科学や社会科学に関する広い知識を修得するため、在学中に教養教育科目、専門基礎科目、専攻科目を学ぶ。中でも、1年次の教養教育科目で人文科学や社会科学に関する広い知識を身に付ける。実験や実習を中心とする科目により、知識を実際の場面で活用する能力と能動的に学修し、自分を高める能力を身に付ける。</p>	<p>【学修方法】 基本的に講義で行われる。主体的な学びの力を高めるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法も実施する。</p>	<p>【学修方法】 人文科学系、社会科学系、医療・健康科学系、総合科目系、外国語系、保健・体育系、情報処理系にわたる幅広い教養教育科目を学ぶ。また、専門基礎科目として地球生命環境理学と生物圏環境科学概論を学修する。</p>	
		<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、レポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、レポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各分野の教員により、試験やレポートにより評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、レポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、レポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	
専門的学識	<p>【学修成果】 理学の各専門分野に関する原理や法則、知識や技術を体系的に修得し、それらを活用する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 理学の各専門分野に関する原理や法則、体系的知識、技術、英語力</p>	<p>【学修内容】 純粋数学及び時代・社会のニーズに対応する数学の両面から現代数学を深く理解する。 1年次では、あらゆる現代数学の基盤を成す解析学と線形代数学を主軸とする科目に加え、大学で数学を学修するために必要となる予備知識を学修する。 2年次では、1年次で学修した解析学と線形代数学のより深い内容を学修するとともに、集合論、代数学、幾何学、位相空間論、複素関数論、実関数論、微分方程式論などの現代数学の入門的な内容を学修する。 3年次では、2年次で学修した内容を深化させる科目に加え、関数解析学や確率論などのより高度な専攻科目を学修する。 4年次では、セミナー形式で開講される卒業研究により、3年次までの学修内容を深化させ、社会において数学的な思考を活かせる能力を修得する。</p>	<p>【学修内容】 物理学の基本的な原理や法則を理解して、物理学における専門的学識を深める学修を実施する。</p>	<p>【学修内容】 自然科学の基本的な原理や法則を理解し、物質の構造、物性、反応に関する知識や技術を体系的に修得し、それらを活用する方法を学ぶ。</p>	<p>【学修内容】 多様な生命現象を、遺伝子のレベルから個体群に至るレベルまで幅広く理解するために、専門教育科目の専攻科目として、生化学、細胞生物学、細胞遺伝学、形態学、系統学、生理学、発生学、遺伝学、生態学を、1年次と2年次に必修科目として学修する。さらに、生物学の諸分野で必要とされる実験手法や技術を修得するために、生体構造学及び生体制御学に関する実験(必修科目)や、富山の自然を活用した臨海実験及び野外実習(選択科目)を3年次までに学修する。また、グローバル化に対応し、教養教育科目における外国語系科目や、専門基礎の選択科目としてのTOEIC英語 eラーニングに加え、科学英語に関する基本的な知識や技術も、3年次までに各教員が担当する少人数制の必修科目として学修する。専門的な知識や技術を体系的に組み立てるために、定められた単位数の範囲内で多様な選択科目を、3年次までに幅広く学修する。</p>	<p>【学修内容】 自然科学の基本的な原理や法則を理解し、物理学、化学、生物学、地学を基盤とする環境科学における専門的知識を深める学修を実施する。 教員免許、博物館学芸員資格の取得に関する授業を実施する。</p>	<p>【求める資質・能力】 高等学校で学習する数学あるいは理科についての基礎学力を有し、理学の各専門分野に関する原理や法則、知識や技術を体系的に修得しようとする意欲を持つ人</p>
		<p>【学修方法】 講義形式で開講される数学の専門教育科目の学修により専門的知識を修得する。また、セミナー形式で開講する卒業研究により専門的知識を深化させ、社会において数学的な思考を活かせる能力を修得する。</p>	<p>【学修方法】 自然科学の基本的な原理や法則を理解するために、専門基礎科目を履修する。現代まで発展してきた物理学について、講義形式及び実験形式で行われる専門教育科目により知識と技術を体系的に学ぶ。また、4年次には、卒業論文研究を行い、現代物理学の問題に自分で取り組み、3年次までに修得した知識・技能を活用する方法を学ぶ。</p>	<p>【学修方法】 自然科学の基本的な原理や法則を理解するために、専門基礎科目を履修する。現代まで発展してきた化学について、講義形式及び実験形式で行われる専攻科目により、知識と技術を体系的に学ぶ。また、4年次には、卒業論文研究を行い、現代化学の問題に自ら取り組み、3年次までに修得した知識・技術を活用する方法を学ぶ。</p>	<p>【学修方法】 講義・実験・実習により行われる。主体的な学びの力を高めるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p>	<p>【学修方法】 自然科学の基本的な原理や法則を理解するために、専門基礎科目を履修する。現代まで発展してきた環境科学について、講義形式及び実験形式で行われる専門教育科目により知識と技術を体系的に学ぶ。また、4年次には、卒業論文研究を行い、最前線の環境科学の問題に自分で取り組み、3年次までに修得した知識・技能を活用する方法を学ぶ。</p>	
		<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーション、レポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーション、レポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 講義科目に関しては、試験やレポートにより評価する。実験形式で行われる科目については、実技試験及びレポートにより評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーション、レポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーション、レポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー					アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】					【求める資質・能力】
		数学科	物理学科	化学科	生物学科	生物圏環境科学科	
問題発見・ 解決力	<p>【学修成果】 理学の基本的な原理や法則を理解し、論理的思考により自ら問題を発見し、解決に向けた取組ができる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究計画力、理数系データ分析力、論理的思考力、論理的思考力</p>	<p>【学修内容】 問題を発見し解決するために必要な専門的知識を修得し、数学的思考力を養うため、数学の各科目を学修する。科目ごとに、必要に応じて実施される問題演習などを通して、問題解決力を養う。また、卒業研究など、セミナー形式の科目を通して、問題を発見する能力を修得する。</p>	<p>【学修内容】 専門的知識・技能を活用し、他者と協調しながら課題を探索し解決する能力や創造力を養うとともに、論理的思考力と応用力を培う学修を実施する。</p>	<p>【学修内容】 ミクロとマクロの視点から多面的に情報を収集・分析し、論理的な思考により問題を解決する方法を学ぶ。</p>	<p>【学修内容】 専門教育科目の専攻科目として、富山の自然を活用した臨海実験及び野外実習を2年次に選択することができる。自然生態系における生物の観察を通じて、生物同士の関係性や周囲の取り巻く環境に関する諸問題の発見及び解決力を養う。4年次には各研究室に数名ずつが配属され、3年次までに修得した知識・技能を基盤として、卒業論文研究を実施し、様々な生物多様な生命現象に関する諸問題の発見及び解決力を養う。</p>	<p>【学修内容】 各種授業、特に実践的内容に富む授業(野外実習、卒業研究など)を履修する。生物圏環境科学実験Ⅰ～Ⅳの実験課題を通して、問題点を発見し、解決する能力を身に付ける。また、野外実習Ⅰ、Ⅱを通して高山、里山、湿地、海浜、河川、海洋、各種環境施設に接し、実際の環境問題を自ら発見し、解決する方法を学ぶ。学内や一般社会で開催される、環境関連の内容を中心にした各種活動に積極的に参加して、問題発見・解決力を体験的に修得する。</p>	<p>【求める資質・能力】 強い好奇心・探求心に基づいて科学の諸課題を発見し、自ら学ぶ姿勢を通じて解決したいという意欲を持つ人</p>
		<p>【学修方法】 数学の専攻科目において適宜実施される演習問題を通して、実際に問題解決に取り組む体験をすることにより、問題解決力、数学的思考力を修得し、セミナー形式で開講される科目を通して潜在的な問題を発見する能力を修得する。</p>	<p>【学修方法】 物質の階層性と物理的世界観の視点に基づいて情報を収集・分析し、論理的に思考する力を育成するために、1年次に、地球生命環境理学のような分野横断型の講義や、基礎物理セミナーなど科学的に考える力を養う科目を学ぶ。これらの力を各分野に関する専門教育科目を学びながら高める。4年次には卒業論文研究を行い、問題解決能力を育む。</p>	<p>【学修方法】 ミクロとマクロの視点から多面的に情報を収集・分析し、論理的に思考する力を育成するために、1年次に、地球生命環境理学のような分野横断型の講義や、基礎化学セミナーなど理学的に考える力を養う科目を学ぶ。これらの力を各分野に関する専門基礎科目及び専攻科目を学びながら高める。4年次には卒業論文研究を行い、問題解決できる能力を育む。</p>	<p>【学修方法】 講義と実験により行われ、主体的な学びの力を高めるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p>	<p>【学修方法】 各種授業、特に実践的内容に富む授業を履修する。生物圏環境科学実験Ⅰ～Ⅳの課題に対しては、実験を通して解決すべき課題を自ら発見し、その解決のための実験手段を自ら見出して実行する。また、野外実習Ⅰ、Ⅱでは、様々な環境で起きている問題に触れ、解決するための手段を考案させる。また、環境問題に取り組んでいる各種環境施設、市民団体の活動の現場に接し、そこで行われている問題解決手段を見学することにより、現実的な問題解決法に関する知見を得る。</p>	
		<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーションやレポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーションやレポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 講義科目に関しては、試験やレポートにより評価する。基礎化学セミナーや卒業論文研究ではレポート、論文、発表により評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーションやレポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーションやレポート課題等により、達成度を客観的に評価する。</p>	
社会貢献力	<p>【学修成果】 社会の一員としての責任と倫理観を持って主体的に行動し、地域と国際社会に貢献する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 社会的責任感や倫理観、自己管理能力、チームワーク力</p>	<p>【学修内容】 社会貢献に必要な基礎知識、及び数学の専門的知識を修得するため、幅広い分野の科目を学修する。情報数理や応用数理に関する科目を通して、社会における数学的思考の有用性を理解し、貢献する能力を修得する。</p>	<p>【学修内容】 少人数による対話形式の授業や実験・演習により、地域や国際社会への貢献力・チームワーク力、協調性と自主性及び責任感を身に付ける学修を実施する。</p>	<p>【学修内容】 社会の一員としての責任や倫理観を持って主体的に行動し、地域と国際社会に貢献する方法を学ぶ。</p>	<p>【学修内容】 専門教育科目(専攻科目)の選択科目として、科学ボランティア活動を学修する。4年次には各研究室に数名ずつが配属され、3年次までに修得した知識・技能を基盤として、卒業論文研究を実施する。</p>	<p>【学修内容】 「幅広い知識」、「専門的学識」、「問題発見・解決力」及び「コミュニケーション能力」の獲得に資する様々な学修(特に保全生物学、海洋科学など地域課題に関する授業、理系キャリアデザイン、科学ボランティア活動)を基盤とし、さらに各種活動への参加などを通してそれらを社会貢献力に活用できる自己管理能力、チームワーク力を身に付ける。</p>	<p>【求める資質・能力】 社会の一員としての責任や倫理観を持って主体的に行動し、地域と国際社会に貢献しようとする意欲を持つ人</p>
		<p>【学修方法】 教養教育科目や自然科学に関する専門基礎科目、数学の専攻科目、及び、情報数理・応用数理に関する科目を学修することにより、社会貢献に必要な基礎知識、数学の専門的知識、及び、社会に貢献する能力を取得する。</p>	<p>【学修方法】 現代社会が直面する様々な課題について学ぶために、1年次に教養教育科目を学ぶ。また、実験形式で行われる講義や成果発表を行う講義で、主体的に行動する能力を培う。4年次に行う卒業論文研究でも、主体的に行動し、研究成果を通じて物理学や科学に貢献していくことを学ぶ。自分の能力を社会のために自発的に役立てようとする自覚と行動力を育成するため理系キャリアデザイン及び学外体験実習、科学ボランティア活動も実施する。</p>	<p>【学修方法】 現代社会が直面する様々な課題について学ぶために、1年次に教養教育科目を学ぶ。また、実験形式で行われる授業科目や成果発表を行う講義で、主体的に行動する能力を培う。4年次に行う卒業論文研究でも、主体的に行動し、研究成果を通じて化学や科学に貢献していくことを学ぶ。自分の能力を社会のために自発的に役立てようとする自覚と行動力を育成するため、理系キャリアデザイン及び学外体験実習、科学ボランティア活動も実施する。</p>	<p>【学修方法】 主体的な学びの力を高めるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p>	<p>【学修方法】 環境関連の各種授業、特に地域課題に関する授業を実施する。</p>	
		<p>【学修成果の評価方法】 卒業研究及びプレゼンテーションにより、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 卒業研究及びプレゼンテーションにより、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 講義形式の科目に関しては、試験やレポートにより評価する。実習形式及び実験形式の科目ではレポート、論文、発表により評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 卒業研究及びプレゼンテーションにより、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 卒業研究及びプレゼンテーションにより、達成度を客観的に評価する。</p>	

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー					アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】					【求める資質・能力】
		数学科	物理学科	化学科	生物学科	生物圏環境科学科	
コミュニケーション能力	<p>【学修成果】 国際的に活躍するために必要な専門的語学力を持ち、自分の考えを適切に伝え、他者の考えを理解し、多様な人々と協調・協働できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 プレゼンテーション力、コミュニケーションスキル、数量的スキル、英語力、就職活動に有効なTOEICスコアの獲得</p>	<p>【学修内容】 外国語系科目の学修、プレゼンテーションの実施、数学の演習問題を通じた表現方法の学修、英語による数学的表現の学修などにより、コミュニケーション能力を修得する。</p>	<p>【学修内容】 少人数教育を通して、各専門分野の学修方法やプレゼン能力・コミュニケーション能力を身に付ける学修を実施する。</p>	<p>【学修内容】 国際的に活躍するために必要な専門的語学を学ぶ。自分の考えを適切に伝え、他者の考えを理解し、多様な人々と協調・協働する方法を学ぶ。</p>	<p>【学修内容】 専門教育科目(専門基礎科目)として、各分野の基礎実験やTOEIC英語eラーニング、専門教育科目(専攻科目)として、科学コミュニケーションや生体構造学及び生体制御学に関する実験に加え、科学英語に関する基本的な知識や技術を学修する。4年次には各研究室に数名ずつが配属され、3年次までに修得した知識・技能を基盤として、卒業論文研究を実施する。</p>	<p>【学修内容】 教養教育における語学の履修、学部教育におけるTOEIC、科学コミュニケーションの履修、生物圏環境科学実験Ⅰ～Ⅳの実験成果発表、卒業論文発表を活用する。海外語学研修や科学英語を通して、英語でのコミュニケーション能力も身に付ける。</p>	<p>【求める資質・能力】 国際社会で求められる専門的語学力の修得に意欲を持ち、自分の考えを適切に伝え、他者の考えを理解し、多様な人々と協調・協働しようとする意欲を持つ人</p>
		<p>【学修方法】 セミナー形式で開講される科目、数学の専攻科目において適宜実施される問題演習などにより、数学的内容の表現方法を修得する。外国語科目、及び、英語の文献を読むための知識を解説する科目を通して、英語による数学的内容の表現方法を修得する。卒業研究により、プレゼンテーション能力を修得する。</p>	<p>【学修方法】 多くの分野、国々の人々の考え方を理解し協働できる力を付けるため、1年次に教養教育科目により広い分野の考え方と他の国々の人々や文化や歴史の違いを学び理解するための基礎となる外国語を学ぶ。海外で英語を学ぶ科学英語海外研修、科学英語海外研修、科学英語海外研修を実施する。3年次には専門化・高度化する科学技術を社会に分かりやすく説明・発信する力を養う、科学コミュニケーションを実施する。2年次、3年次に行われる実験科目では、グループで行う課題を通じて、協働する能力も養う。4年次の卒業論文研究では、実験、議論を通じて協調・協働する能力を身に付ける。</p>	<p>【学修方法】 多くの分野、国々の人々の考え方を理解し協働できる力を付けるため、1年次に教養教育科目により広い分野の考え方と他の国々の人々や文化や歴史の違いを学び理解するための基礎となる外国語を学ぶ。海外で英語を学ぶ科学英語海外研修、科学英語海外研修を実施する。また、1年次には基礎化学セミナーを実施し、課題発表をすることにより自分の考えを伝える方法を学ぶ。3年次には専門化・高度化する科学技術を社会に分かりやすく説明・発信する力を養う、科学コミュニケーションを実施する。2年次、3年次に行われる実験科目では、グループで行う課題を通じて、協働する能力も養う。4年次の卒業研究では、実験、議論を通じて協調・協働する能力を身に付ける。</p>	<p>【学修方法】 主体的な学びの力を高めるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。</p>	<p>【学修方法】 生物圏環境科学実験Ⅰ～Ⅳの実験成果発表や卒業論文発表ではコンピュータを使った専門分野での発表能力を身に付ける。科学英語では授業やコンピュータを使った発表を通して英語でのコミュニケーション能力も身に付ける。</p>	
		<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーションやレポート課題等、TOEIC試験により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーションやレポート課題等、TOEIC試験により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 講義科目に関しては、試験やレポートにより評価する。実習形式及び実験形式の科目ではレポート、論文、発表により評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーションやレポート課題等、TOEIC試験により、達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【学修成果の評価方法】 各科目の定期試験、プレゼンテーションやレポート課題等、TOEIC試験により、達成度を客観的に評価する。</p>	